

広げよう つなげよう 行動の環 人間市環境まちづくり会議 会報

編集・発行 / 人間市環境まちづくり会議

第4回 いるま環境フェアに向けて

第4回いるま環境フェア
平成27年6月14日(日)
10時~16時
会場 産業文化センター



平成26年6月15日に開催された第3回いるま環境フェア。天候にも恵まれ大勢の方に楽しんでいただけたことと思います。

平成24年から取り組んできたフェアも第4回に向け、実行委員会が先日開催され、昨年同様、「人間市環境まちづくり会議」会長、木内勝司氏が実行委員長に互選されスタートしました。

人間市環境基本計画、基本方針1の、「環境意識を持ち、自発的に行動する市民になる」を実践する取り組みとなるいるま環境フェ

アは、実行委員会、市民団体や企業の出展者、行政とともに、地域の皆さんと楽しみながら環境について考えるきっかけになればと思っています。
今回は、展示会場では「エコドライブシミュレーター」で環境にやさしいドライブ体験ができます。
ホールでは「ビートたけしのTVタックル」「世界一受けたい授業」など多くの番組に出演されている垣田達哉氏をお招きして、「環境から考える食の安全」についての話をさせていただきます。ぜひ足をお運びください。



昨年の様子

私たちの暮らしと環境



会長 木内 勝司

人が生きていくのに必要なものと聞かれたら、皆さんは何と答えるでしょうか。たいていの人は「お金」というでしょうか。確かにお金がないと生活は立ち行かません。「お金」は、生活に必要なものを手に入れるためのものですが、「お金」があっても、生活に必要なものが手に入らないという事態を、多くの人が実感を持って経験した出来事がありました。それは「3・11東日本大震災」です。この時は、被災地の人たちは何日もガソリン、食糧、水といった生活必需品が「お金」でも手に入らない事態が続きました。

人が生きていくために必要なものは、実は「お金」ではなく、「エネルギー」、「水」、「食糧」です。「お金」はそれを手に入れるための一つの手段にすぎません。「お金」がなくても、これらが手に入れば、人は生きていくことができますが、近代的な都市生活を営む私たちは実感としてはなかなかこのことに思い至りません。これらの、人が生きていくために必要な「エネルギー」、「水」、「食糧」を将来にわたって確保していくためには、多くの人が環境意識を高めていく必要があります。

「エネルギー」は、現在、化石燃料にその多くを依存しています。化石燃料に依存した産業革命以降の高度工業化社会は「地球温暖化」という未曾有の災害をもたらすかも知れない危険性があることがだんだん分かってきました。この危機を脱却するために、いずれ枯渇してしまう化石燃料から持続的な再生可能エネルギーに変換しようと、世界各地、日本各地で模索が始まっています。
「水」は人が生きていくために最も大切なものの一つです。水道、下水道は快適な都会生活に欠かせませんが、ダムや下水処理場などの大規模インフラ施設が、河川の健全な水循環に大きな影響を与えていることも、また、事実です。カロリーベースで40%しかないという我が国の食糧自

給率も、「食糧」とかかわる環境問題の一つでもあります。外国から多くの食糧を輸入しているということは、日本の外に水や食糧、エネルギーなどの環境問題を引き起こしているかも知れないわけです。パーチャルウォーターという概念でこの問題を提起した学者もいます。
人が生きていくために必要な「エネルギー」「水」、「食糧」を通して、私たちの身の回りの環境との関係を考えてみてはいかがでしょうか。平成24年度から始めた「いるま環境フェア」も今年第4回「6/14(日)」を迎えます。多くの市民、団体、企業、行政の皆さんが取り組んでいることに接してみる良い機会だと思えます。皆さんのご来場をお待ち申し上げます。

平成26年度の年間事業

- 5月 ●総会
- 吉田元気村見学会
- 6月 ●第3回いるま環境フェア開催
- 7月 ●路上喫煙防止キャンペーンに参加
- 大森の池まつりに参加
- 9月 ●環境団体との交流会
- ポイ捨てゼロ推進運動に参加
- 10月 ●ごみ減量・マイバッグ推進キャンペーンに参加
- いるま万燈まつり会場のごみ拾いを実施
- 11月 ●環境ウォーキング開催
- 古紙再生工場と紙の博物館見学会
- 12月 ●生涯学習フェスティバルに参加
- 首都圏外郭放水路とコカ・コーラ工場見学会
- 3月 ●会報の発行

※7月~9月及び12月~2月にエコライフDAY活動を実施
※ごみひろい隊の活動は、毎月第2日曜日に豊岡コースと藤沢コースを交替で実施(詳しくは、ホームページの「ごみひろい隊」をご覧ください)



総会



ごみひろい隊の活動

人間市環境まちづくり会議

事務局 人間市役所環境経済部環境課
TEL 04-2964-1111(代表) 内線 3221,3226
FAX 04-2965-0232(代表)



検索

「部会だより その1」
ごみ部会 活動報告

みんなのごみ部会

月に一度の定例会やごみひろい隊活動をしました。
6月 環境フェアで雑誌の分別、小型家電の回収の推進やペットボトルの回収に関する展示
7月 入間市総合クリーンセンターとの打ち合わせを行い、昨年度の実績や今年度の計画などを学習
8月 ビニール・プラスチックに関して、環境アド



大附ミカン園

バイザーである斎藤氏の講演会を開催し、一般市民と供にごみとしてのビニール・プラの学習
11月 ごみ部会始まって以来2回目のレクレーションを温暖化防止部会と合同で開催し27名が参加。バスを仕立てて、ときがわ町の大附ミカン園にてミカン狩り、そば道場にて昼食、飯能市吾野の東郷公園秩父御岳神社にてきれいな紅葉を堪能
11月 一般市民を対象にしたごみ処理施設の見学会
12月 生涯学習フェスティバルにおいて、雑誌やビニール



そば道場での昼食

プラの分別に関する展示部会員やごみひろい隊参加者の活躍で充実した一年であった。



小学校4年生の作品

(釘持和夫記)

「部会だより その2」
ソーラーシェアリングとは？

地球温暖化防止部会

最近「ソーラーシェアリング」という言葉を良く聞くようになった。文字通り「シェアリング」とは「分け合う」という意味がある。この「ソーラーシェアリング」は太陽光を作物の育成と発電とで有効に分かち合うシステムで、ソーラー発

電と農産物生産を同時に行うことを意味する。太陽光は元々農産物に必要であるが、作物によっては太陽光が強すぎる事が多い。一定量の光があれば育ち、それを超える量の太陽光は成長に必要な量ではない。その分岐点を「光飽和点」と言う。光飽和点の高いものとしてはトウモロコシ、米、スイカ、サトイモ、トマト等があり、低いものとしてはレタス、ニンジン、ハクサイ、シクラメン等があり太陽光はかえって強すぎて農産物生産には不向きである。

2013年に農業の規制改革が進み農地に工作物を造ることが出来るようになった。主な点として支柱は簡易な構造で容易に撤去できるものに限る。また、収穫高が平均と比較して2割以上減少しないことが条件に挙げられている。ソーラー発電と農産物生産を同

時に行く。それが現実的になってきた。
(本多進記)



作物を育てながらソーラー発電も行う

平成27年度 総会のお知らせ

平成27年5月23日(土)

午後2時30分より

入間市産業文化センター
2階集会室

見学会

平成26年度は、3回の見学会を開催しました。いずれの見学会も、多くのキャンセル待ちがでるほどの人気でした。

吉田元気村発電所

平成26年5月22日
快晴で暑い1日でした。埼玉県秩父市ちちぶバイオマス元気村発電所、龍勢会館/秩父事件資料館・井上伝蔵邸、埼玉県立自然の博物館を見学しました。



吉田元気村発電所

古紙再生工場と紙の博物館

平成26年11月28日
王子マテリア(株)江戸川工場と紙の博物館(北区)を見学しました。見学者からは、古紙再生等について学べ有意義な見学会であったとの声寄せられています。



首都圏外郭放水路と

コカ・コーラ工場

平成26年12月17日
風が強い日でしたが晴天で見学日和でした。コカ・コーラ岩槻工場と首都圏外郭放水路(春日部市)を見学しました。首都圏外郭放水路は、テレビなどで紹介されていることもあり、興味のある方が多く、参加者からは見学ができて大変良かったとの意見をいただきました。



首都圏外郭放水路



古紙再生工場

環境ウォーキング

25年度に復活した環境ウォーキング。今年も天候に恵まれ、参加者からは次回の開催を望む声がたくさん寄せられました。

今回のコースは「加治丘陵コース」と「霞川下流コース」の2コース。約2~3時間かけて市内の自然を再発見しました。ゴールのまちや公園では、環境クイズや入間市産の里芋や大根などで作った芋煮がふるまわれ大盛況でした。



まちや公園では芋煮がふるまわれました

加治丘陵コース

